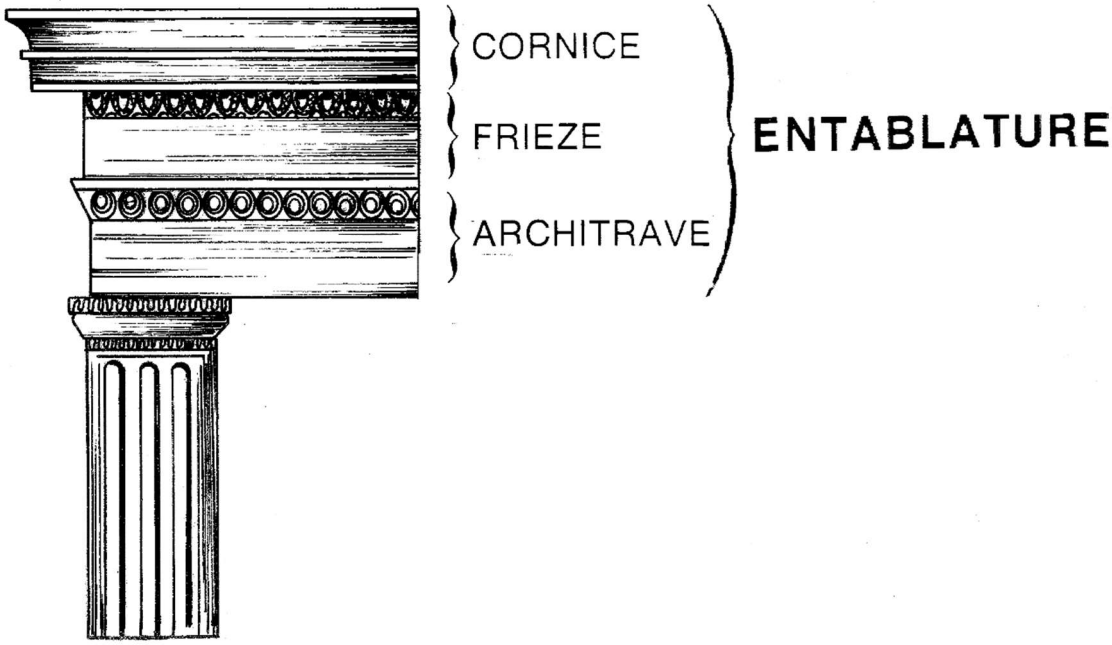
西洋美術史ゼミ第三回補足資料

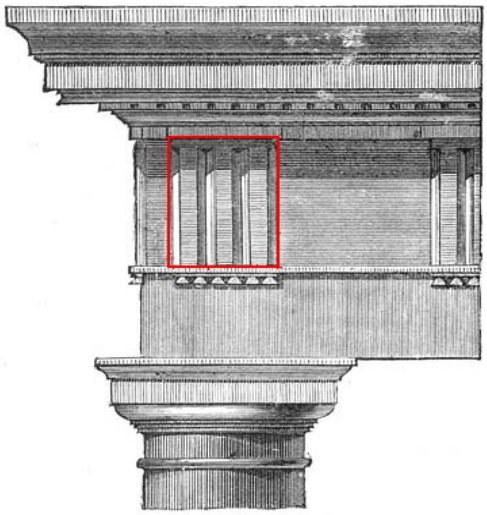
語釈

- エンタブラチュア



柱頭の上部へ水平に構築される部分。上図のようにアーキトレーブ、フリーズ、コーニスの部分に分かれる。この構造は建築様式によって異なる。

- メトープ



この写真 の作成者 不明な作成者 は CC BY-SA のラ
イセンスを許諾されています

ドーリス式オーダーではフリーズ装飾に上図のような三本の縦方向の帯があった（トリフ（Triglyph））。この帯の間のスペースに装飾された彫刻をメトープ（Metope）という。

- 神人同形

宗教上の擬人観の一。信仰の対象である神に、人間の持っている形姿・性質を備えさせる考え方。例えば、古代ギリシャの神が、人間と同様に喜怒哀楽の感情を持つとされたことなど。

（出典：”神人同形説”.コトバンク.2022 年 2 月 4 日. https://bit.ly/34yqwf1）

講義の補足

- 大絵画（クラシック時代）
- 古代ギリシアの建築様式

古代ギリシアにおける建築様式で主なものとして、ドーリス式、イオニア式、コリント式がある。ドーリス式は三様式のうちもっとも古く、簡素である。イオニア式は次に誕生し、柱頭やフリーズの彫刻などが特徴である。最後にコリント式は、柱頭のみがコリント式と異なる。

- 古代ギリシアの文化

文学については叙事詩（ホメロスやヘシオドス）や、演劇（三大悲劇詩人）が生まれた。歴史学ではヘロドトスやトゥキディデスが有名である。哲学ではピタゴラスやヘラクレイトスなどに代表される自然哲学が興ったあとソフィストが台頭し、その後三大哲学者ソクラテス、プラトン、アリストテレスが生まれた。彼らが没した後、エピクロスが始めたエピクロス派やゼノンが始めたストア派が誕生した。また、ヘレニズム文化は自己を世界の一員とみなす世界市民主義（コスモポリタニズム）であった。

参考文献

1. ヴァルター＝ヴォルフ,「西洋美術全史-1 オリエント・エーゲ海美術」,グラフィック社, 1979
2. W.H.シューフハルト,「西洋美術全史-2 ギリシア美術」,グラフィック社, 1978
3. ヘルガ=フォン=ハインツェ「西洋美術全史-3 ローマ美術」,グラフィック社, 1980
4. 越 宏一「ヨーロッパ中世美術講義」, 岩波書店, 2001
5. 宮下 規久朗「カラー版 1 時間でわかる西洋美術史」, 宝島社, 2018
6. 高階 秀爾「増補新装 カラー版 西洋美術史」, 美術出版社, 2002
7. 木村 靖二「詳説世界史 B」, 山川出版社, 2021